

令和4年度 学校関係者評価書(生徒指導部)

鈴鹿市立明生小学校

NO. 3

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
安全教育	①避難訓練を学期に1回、交通安全教室の講座を年間1回行う。	交通安全についての学習は必要。定例の方法でも構わないので必ず行うことが大切である。 ルールを守る意識を持たせてほしい。 避難訓練も大切なので防災教育を意識した訓練を続けてほしい。	○避難訓練は今後も想定や避難経路を工夫しながら実施していく必要がある。 ○交通安全教室は安全に関する知識や技術をしっかりと身につけるため、今後も継続して実施する。 ○交通安全教室で、交通ルールについて重点的に指導していくとともに、日頃からの指導も徹底する。
	成果と課題(達成状況を含む) ○計画的に訓練等が実施できた。 ○交通安全教室は講話形式で実施し、児童の実態に合った充実した内容で行うことができた。 ●交通安全教室は実施しているが、自転車乗車時のヘルメット非着用の児童がいる。 ●1回目の避難訓練は、年度当初に実施したほうがよい。		
生活目標	②月ごとに生活目標を決めて指導する。	ルールを守ることの大切さも身につけていけるように取り組んでほしい。 児童との協働事業となるような取り組みも進めてほしい。	○今後も児童の実態を踏まえて、児童会や委員会と協力して進めていく。
	成果と課題(達成状況を含む) ○児童の身近な生活課題を目標設定し、見直しを行いながら指導することができた。 ○児童会で分かりやすい目標を考えて啓発したり、委員会で点検を行ったりした。 ○児童の実態から取り組み内容を考え、点検活動を定期的に(月1回程度)行うことができた。 ○点検結果を点数化し、昇降口に掲示したり、放送で伝えたりすることで、児童の意識を高めることができた。 ●取り組んだことが、児童の力となり日常の学校生活に生かされる必要がある。 ●廊下を走る児童がいる。		
いじめ防止	③「いじめアンケート」の結果や児童についての日頃の情報共有、地域や保護者からの情報等をもとに、「いじめ0」に向けた早期発見、早期対応を行う。	これからもアンテナを高くして情報収集をしてほしい。先生と保護者の情報共有も大切にしてほしい。	○日頃から、教職員間で児童の気になる様子を共有して把握できるように、今後も、打ち合わせや職員会議等の場で、情報交換していく。また、「報告・連絡・相談」を全教職員が徹底していかなければならない。 ○いじめ等の問題については、日頃から児童とともに考えていく必要がある。また、小さなことも見落とさないよう、注意深く見守る。子どもたちとのコミュニケーションも密にとる。 ○保護者との連絡を密にとって、子ども達のことを一緒に考えていけるような関係を築いていく必要がある。
	成果と課題(達成状況を含む) ○毎学期「いじめアンケート」を実施し、児童の実態把握を行った。毎月の職員会議で、気になる児童や問題行動について職員間での共通理解を図っている。 ○児童の変化を共有できるように、打ち合わせで確認することを行った。 ○小さな事案でも、すぐに聞き取りをし、当事者同士で話し合うことで、早期対応につながった。 ○児童会と生徒指導部が連携して「いじめ防止啓発」として、いじめをなくすために各クラスで話し合いを行った。 ○いじめ防止連絡協議会を開催し、いじめアンケートをもとに、情報交換をした。 ●「いじめ0」にはできなかった。		
あいさつ	④あいさつができる子どもを地域や家庭と連携して育てる(「あいさつができる子ども」90%以上)。また児童会との連携も行う。	あいさつ運動の様子はうかがえます。 あいさつについて子どもたちの意識をさらに向上させてほしい。	○「気持ちのよい」あいさつの仕方について、呼びかけていく必要がある(児童会と協力して行えるようする)。 ○教師自身もあいさつを行い、子ども達が見て学べるような姿でいられるようにしたい。 ○児童会や代表委員会、有志の児童でのあいさつ運動から、輪を広げ、全体の雰囲気を変えていけるような取り組みが必要である。
	成果と課題(達成状況を含む) ○「自分から進んで学校で友達や先生にあいさつをする」は約85%となっている。「自分から家族や地域の人に気持ちのよいあいさつをする」も、約89%となっており90%に達していない。(児童の「学校アンケート」より)。 ○児童会では、あいさつできるように定期的にあいさつ運動に取り組むことができた。 ○職員室入室時の児童への声かけを行ったことで、職員室入室時のあいさつがよくなった。 ○あいさつできた児童をほめる活動を行ったことで、あいさつすることにポジティブな印象をもつことができ、あいさつできる児童が増えた。 ●取り組み期間中はできても、取り組みが終わるとあいさつできない児童がいる。 ●学校外でのあいさつも意識してできるようになるとよい。 ●地域の人やお客さんなどに廊下などで出会ったときに、あいさつができない児童が多い印象がある。実生活で生かされるあいさつができるよう、指導を続けていく必要がある。		